



オーストラリアの認知症戦略

国家認知症戦略に関する国際政策シンポジウム

東京

2013年1月29日



なぜオーストラリアは認知症に 取り組むのか

- 65歳以上の国民のうち、274,000人が認知症である – 高齢者の11人に1人
- 認知症は個人、家族、コミュニティ、経済に影響を与える
- 2050年までに850,000人に増える見通し
- 認知症は全ての人に関わる問題である



オーストラリアの認知症戦略の 3つの動き

- *認知症戦略の国家的枠組み*
(*National Framework for Action on Dementia*)
- “*Living Longer Living Better*” 高齢化および高齢者ケア改革の導入（2012年）
- 認知症を国の最優先健康課題に位置付け



認知症の行動・心理症状 (BPSD)

- BPSD – 認知症の最も大きな課題
- 様々な政策とサービス
 - コミュニティの啓発
 - 診断とケア
 - 倫理および人権に関わる問題
- 精神科病院への入院を防ぐ



BPSD – 認知症にやさしい コミュニティと環境

- 危機に対応するための啓発訓練:
警察、救急車、救急サービス、銀行、
交通機関で働く人々を対象
- 認知症の障害に対応する設計:
自宅、介護施設、地域施設



BPSD – 認知症の行動マネジメント 助言サービス

- BPSDのある人をケアする人に対して実践的な支援を提供
- BPSDのある人のニーズにうまく対応するための知識と自信を与える
- 自宅、介護施設、病院、診療所において支援を提供



BPSD – 拘束と抗精神病薬

- 拘束のない環境で暮らすのは人の権利
- 決定を導き出し、拘束を最小限にとどめるための実践的戦略
- 薬物療法に関する規制
- 国家処方委員会(National Prescribing Service)による高齢者ケアホーム訪問および職員へのアドバイス



BPSD – 重度の症状に対する 新たな統合的ケアモデル

- 重度のBPSDのある人にケアを提供する高齢者ケアホームの増加
- 新たな統合的ケアモデル:
 - ケアホームにおける目的別ユニット
 - 精神保健専門職によるケースマネジメント支援
 - 通常ケアへの移行をサポート



Australian Government
Department of Health and Ageing

Thank you